

〔事業報告〕

平成25年度

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

No. 4

(川南町)

川南町

事業名：川南町の3つ（人・自然・経済）の元気を創造する事業

1. 【団体の概要】

地方自治体である川南町と町内の自治公民館が協働して当該事業に着手した。

2. 【事業の目的、ねらい】

自治公民館や自治会への加入率低下に歯止めがかからない本町。

その理由の一つとして、これまで地域（自治公民館や自治会）の「うっとおしさ」の面のみが強調されてきたからではないだろうか。

とするならば、これまでの自治公民館等の各種行事や制度的な改革を進めると同時に、地域が持つ生活文化などの「素晴らしさ」や「ありがたさ」等を再発見・再認識する作業（地元学）を通じて、「自治会加入」の気運が高まることをねらいとし、当事業に取り組ませていただいた。

3. 【活動内容】

（1）地域内の「あるもの探し」で、地元の素晴らしさを再発見

① 川南町第14区・分館の地元学

平成25年7月28日（日）午前8時30分～

①金川さん宅、②門田さん宅、③森木さん宅、④徳光さん宅、

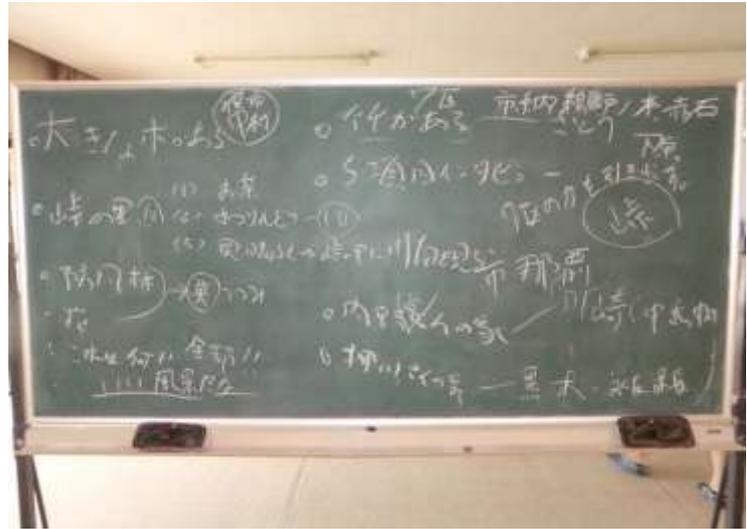


⑤本多さん宅、⑥対象地区（14区・分館）全体調査

② 川南町第7区・分館の地元学

平成25年8月11日（日）午前8時30分～

- ①内野宮さん宅、②押川さん宅、③峠の里、
④対象地区（7区・分館）全体調査



③ 川南町第16区・分館の地元学

平成25年9月21日（土）午前8時30分～

- ①渡部さん宅、②川島さん宅

④ 川南町第19区・分館の地元学

平成25年11月30日（土）午前8時30分～

- ①網代さん宅、②阿部さん宅

⑤ 川南町第12区・分館の地元学

平成25年12月14日（土）午前8時30分～

- ①込の口（おろのくち）地区「水のゆくえ」調査
②今井伸二さん宅、③河野さん宅、④今井一さん宅



2) 川南づくり講演会

- ① 日時：平成26年1月7日（火）午後2時～
- ② 場所：川南町農村環境改善センター広間
- ③ 演題：「川南に強く生きる ～自分たちの力に気づく～」
- ④ 講師：吉本 哲郎（よしもと てつろう）氏



4. 【事業の成果、効果】

当該事業の実施で、地域内の「モノ、コト、ヒト」の再発見する作業を行う一方で、50年以上にも亘る本町の自治公民館制度の抜本的な仕組みの改革（町内24個の自治公民館を、小学校区を基本とした6つに再編する改革）を提案し、住民の了承（議会の承認）を得た。

このことにより、地域が抱える様々な問題解決と新しい価値創造を展開するための下地づくりが得られたことが、大きな成果であると考えている。

5. 【まとめ】

来年度から実施することとなる「新しい自治公民館」のそれぞれが、地元が持つ基礎価値に気づきはじめたことで、新しい付加価値を上乗せできる環境が整いつつあるので、とどまることなく日本一の川南町づくりのために行動して行きたい。



川南町の3つ(人・自然・経済)の元気を創造する事業

平成25年度協働モデル事業活動報告会
日時:平成26年2月21日(金)
場所:JA AZM別館202研修室

突然ですが、川南町で起きていること等

◆少子・高齢化はもとより、一世帯当たりの人数の減少とともに高齢化が進んでおり、買い物や病院通いにも不便を感じ、日常生活を送ることが困難な人が増えてきています。また、ひとり暮らし高齢者が振り込め詐欺などの犯罪に巻き込まれたり、安否確認が困難になってしまう心配もあります。

◆地域の皆で子どもを育てようという気持ちや、子どもを介した地域のつながりが希薄になってきています。見守り活動などの子どもを対象とした地域活動が今後少なくなれば、子どもに関する事故・事件が増える恐れがあります。

◆ゴミ出しのルールを守らない人が増えてきています。振興班等が管理するごみ置き場の秩序が保てなくなること、衛生的な生活環境が維持できなくなってしまうのではとの不安もあります。

◆地域(振興班や区・分館)の維持が困難になりつつあるところがあります。

◆地域との関わりを煩わしいと感じる住民も増えており、ご近所さんの顔が見えにくくなってきています。その結果、地域での協力体制が低下し、災害時に近所の住民の安否確認や救助活動が行えないなど、生命に関わる大きな問題に発展する恐れがあります。

各区・分館ごとの振興班(自治会)加入率一覧表

※住民基本台帳(平成25年4月1日現在より)

区	総世帯	加入世帯	未加入世帯	加入率
1	435	290	135	64.4
2	127	97	30	76.4
3	828	356	272	56.7
4	945	399	246	61.9
5	219	136	82	62.4
6	167	120	47	71.9
7	165	95	70	57.6
8	588	315	273	53.6
9	212	143	69	67.5
10	154	110	44	71.4
11	241	165	76	68.5
12	82	68	14	82.9
13	108	78	30	72.2
14	86	59	27	68.6
15	295	193	102	65.4
16	464	323	141	69.6
17	161	107	54	66.5
18	435	337	98	77.5
19	344	170	174	49.4
20	482	266	216	55.2
21	130	104	26	80.0
22	136	84	52	61.8
23	307	215	92	70.0
24	89	78	11	87.6
合計	6,699	4,298	2,401	64.2

振興班(自治会)加入率の低下の要因は様々考えられますが、特に、①転入してきた世帯や、②親世帯から世帯分離した世帯など、新たに増えた世帯の振興班加入が進んでいないことも大きな原因であると考えられます。



宮崎日日新聞(平成25年12月31日)

既存の制度改革に取り組むための5つの柱

- ① 振興班の様々な負担軽減(行事や負担金の大幅な軽減)を行います。
- ② 上記の負担軽減を通じ、振興班(自治会)への加入促進の体制を固めます。
- ③ 今行われている地域の祭りや行事は、これまでと同じように活動できます。
- ④ 少子高齢化の現状と将来予想を勘案し、現在の24区・分館制から各小学校区制とする6校区制に集約します。
- ⑤ 振興班未加入世帯は、新しい自治公民館の「地域づくり部会」に属していただきながら、地域活動等に協力・参加してもらった環境を整えます。

【モデル事業着手の目的やその背景】

自治公民館や自治会(本町では振興班)への加入率低下に歯止めがかからない本町...この問題は、本町における長年の重大な課題であります。

数十年に亘り、集落の大幅な再編などの改革案を提示するなど、様々な対策等を講じてきましたが、抜本的な効果等を得ることはありませんでした。

このような状況下ではありましたが、平成25年5月に「地域づくり創造プラン」というこれまでになかった計画を打ち出し、大改革へ動き始めたのでした。同時に、当協会の事業に採用いただき、「問題解決」はもとより「川南町の持つ価値創造」に向けた行動を起こすことができました！！

町の制度自体も大幅に見直しましたが、一方で、地域が持つ素晴らしさの再発見にも取り組みました。

「地元学ぶ」取り組みです。

参考にしたのは、「水俣病」という公害病により地域コミュニティが崩壊しただけではなく、「モノが売れない」、「結婚ができない」、「就職ができない」、など幾重の苦しみを、地域全体で乗りきった「熊本県水俣市」に、です。

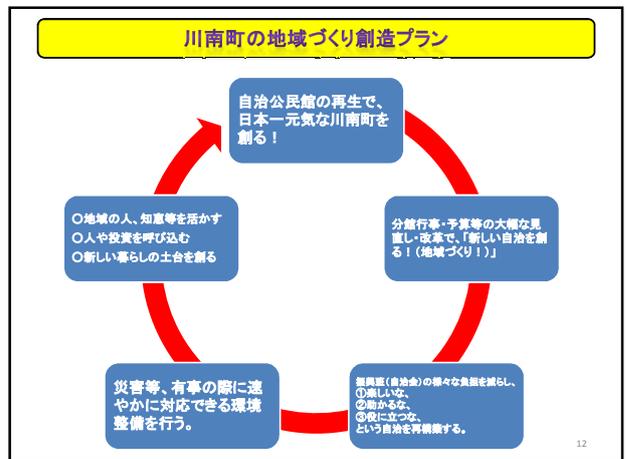
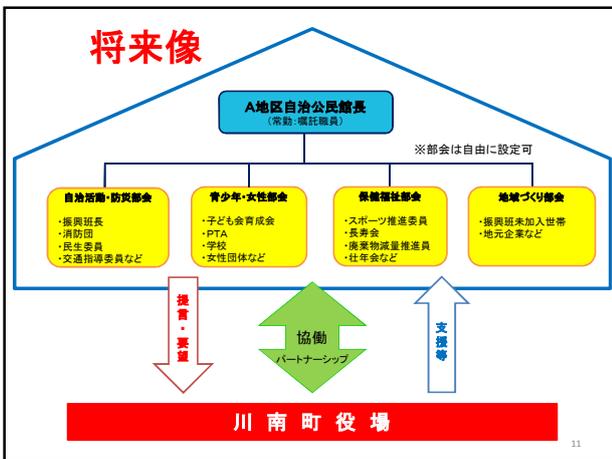
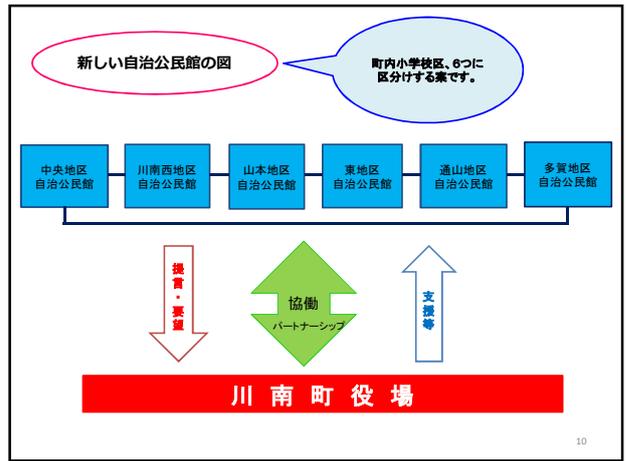
「愚痴」から「自治」へ！



水俣病の発生

工場などから環境中に排出されたメチル水銀化合物が魚などに蓄積され、その汚染された魚などを食べることで起きる中毒性の神経系の病気」

1956	水俣病公式確認
1968	政府は公害と公式認定
	今までの認定患者: 2,268人
1996	政府最終解決策: 10,353人
2004	最高裁判決 37人
2007	新たに申請 4000人以上
	新たに裁判 1400人以上
現在	救いを求めて 6万人以上



事業の成果

「地元学ぶ」ための「あるもの探し」や「絵地図」づくりの貴重な実践を、当該事業により複数回経験させていただきました。

そのことは、地域が持つ新しい「価値創造」を展開するための下地づくりとなった、ということだと考えます。

本当に大きな成果だと思います。

13

今後について

地元学を通じて得た材料を見つめ直し、『それはなぜか？』『これをどのように』など、深く考える作業を含めた熟成の期間と、「気づき」をもらう機会が来年度は必要であるため、引き続き当該事業を活用させていただきたいと存じます。

これからも御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

川南町総合政策課 河野英樹

14